

しゅん か しゅう とう  
春 夏 秋 冬

## 《红白喜事》冠婚葬祭中的“冠”

在这一期里，我们想就冠婚葬祭（红白礼祭）中的“冠”给大家作一下介绍。

进入正题之前，先让我们来看一看什么是“冠婚葬祭”。这是古代的四大礼法，“冠”指戴冠仪式；“婚”指婚礼；“葬”指葬礼；“祭”指祭祖。

所谓“元服”，本来是指古代男儿在成人时为他所举行的祝贺仪式，这一天，成人男儿的发型、服饰都要变换，并为之戴冠。据说在当时，男孩子长到11至17岁之间时，大都会为他举行戴冠仪式。

现在在日本，符合“冠”这一礼法而普遍举行的活动，有“首参神社”、“七五三”、“成人式”等。

### 首参神社

这是为了祝贺小宝宝诞生、祈愿他/她健康成长而前往当地的神社进行参拜，也说成是“参拜神社”或“首参保护神”。有关参拜的时期，古代传下来的规矩是：男孩儿在出生后的第31天；女孩儿在出生后的第33天前往神社，但最近已经不太拘泥于这种时间限定了。

另外，首参神社一般都是由祖母代替产后身体还没有完全恢复的孩儿的母亲，抱着婴儿前往神社参拜的。



## 《冠婚葬祭》冠婚葬祭の「冠」(かん)

今回は、冠婚葬祭の「冠」についてご紹介したいと思います。

本題に入る前に冠婚葬祭とは何のことでしょうか。これは、古代の四大礼式のことで、「冠」は元服、「婚」は婚礼、「葬」は葬儀、「祭」は祖先の祭祀のことを意味しています。

元服とは、元々は男子が成人になったことを示し祝う儀式で、髪型や服装を改め、頭に冠を加えるものでした。当時は、11～17歳で行うことが多かったといえます。

現在の日本で「冠」に該当するものとして広く行われている行事には、「初宮参り」、「七五三」、「成人式」などがあります。

### 初宮参り

これは、赤ちゃんの誕生を祝い、元気な成長を願って、地元的神社にお参りするもので、「お宮参り」、「産土（うぶすな）参り」ともいいます。お参りの時期は、男児は生後31日目、女児は33日目というのが古くからのしきたりですが、最近ではあまり日数にこだわらずに行われています。

なお、お参りには、産後の体力が回復していない母親に代わって祖母が赤ちゃんを抱いていくことになっています。

## 七五三

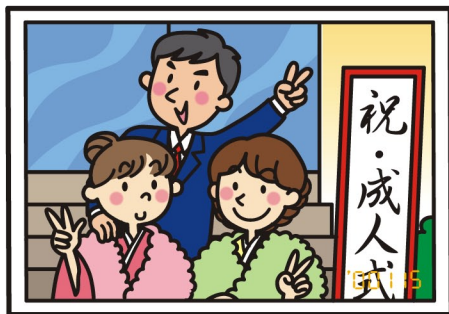
这是指为了祈愿孩子的健康成长，男孩分别在三岁至五岁上、女孩则分别在三岁和七岁上，由一家人齐齐整整地前往神社进行参拜的仪式。参拜时间的正式规定是那年的11月15日，但大多数人似乎都是选择这一天前后的节假日前往参拜。

## 成人式

指年轻的男女满20周岁时为他们举行的、祝贺其加入成人（大人）行列的仪式。

每年1月的第二个星期一（到1999年为止都是1月15日）为“成人节”，各地的地方政府都会邀约那些刚刚成年的人举行纪念仪式，可是最近发生了年轻人在这样的仪式中吵闹及饮酒等不良行为，因此，重新审视以行政机关为主的“老一套”的纪念典礼形式、提倡由新成人自己组织庆祝仪式的地方政府，日渐增多。

另外，现在日本的法定成人年龄为20岁。但因国度及民族的不同，这一年年龄也会出现参差。即使同是在日本，正如开头所说的那样，“元服”时代的成人年龄，就与现在不一样。



## 七五三

子どもの健やかな成長を願って、男児は3歳と5歳、女児は3歳と7歳のときに家族そろって神社にお参りするものです。お参りの時期は、その年の11月15日が正式ですが、実際にはその前後の休日に行う場合が多いようです。

なお、以前は数え年で行うこととなっていました。現在では満年齢で行う人も増えています。



## 成人式

若い男女が満20歳になり成人（大人）の仲間入りしたことを祝う行事です。

1月の第2月曜日（1999年までは1月15日）の「成人の日」には、各地の自治体で新成人を招いて記念式典が行われていますが、近年では式典中の私語や飲酒など、参加者のマナーの悪さが指摘される一方、行政主体の「お仕着せ」の式典の在り方を見直し、新成人自身による手作りの式典を開催する自治体も増えてきました。

なお、現在の日本における成人年齢は、満20歳ですが、それぞれの国や民族により年齢が異なります。また、日本においても、本稿の初めの部分で述べたように、「元服」の時代の成人年齢は、現在とは違っていました。